

# 株式会社アビサレ（静岡県）

～ 知的財産権を力に新規事業を切り開く ～

## 1. オリジナル技術でインクジェット用ポスターフレームを

株式会社アビサレの歴史は古く、明治45年に印刷業を手がける「大日本赤心堂」が創業されたのが最初。その後、綿々と印刷業を続けてきたが、昭和45年に現在の笠原社長が入社してからは、会社の発展を目指して新たな分野への事業展開に乗り出した。

本業の印刷業を伸ばすために、広告デザイン会社「アビサレ」を立ち上げて、企業や商店の広告企画や販売促進計画の立案から、ポスター、パンフレット等のデザイン・印刷までを一貫して請け負う事業体制を整備した。

ただし、地域では順調に業績を伸ばしたものの、全国展開は困難であり、また、安価な海外製品とのコスト競争も厳しくなったため、笠原社長は新たな事業展開を考えた。独自製品を開発し、知的財産権を取得することにより、他社が参入できない分野を開発していこうという戦略である。

いくつかの新商品開発と挫折を経て、今、同社が自信を持って提供するものが「テンションフレーム」だ。これは、紙製の大型ポスターを展示するための器具である。

従来、ポスターを掲示する場合、フレームとアクリル製の透明板との間にポスターを挟んでいるものが一般的であった。しかし、ポスターが大型になればなるほどアクリル板も重くなり、作業が大変になる。また、照明等の光がアクリル板に反射して見えにくくなることもある。

このような課題を解決するべく同社が開発した「テンションフレーム」には、そもそもアクリル板が必要なく軽量なので、左右が最長10mのポスターまで簡単に掲示できる。金属フレームの四隅の内側に留め具を付け、この留め具がポスターの四隅を均一に引っ張り、ポスターをきれいに掲示するというもの。四隅の留め具に技術的な特徴があり、日米で特許を取得している。現在、大手スーパーや映画館、ホテル等に納品しており、今後益々売上げの増加が期待できる。

## 2. 知財管理

従来技術にはない「フレキシブル大型基板印刷」を同社で開発したとき、有名企業が製造するシンセサイザー等の鍵盤下の部分に使う部品として採用された。一時は契約企業の製品の約7割に基板材料が使われ、3年ほど生産を行い、売上げを伸ばした。

しかし、「フレキシブル大型基板印刷」については特許を取得していなかった。そのため、やがて同じような製品を海外で安価に作られてしまった。この時に、特許権がないと、技術だけで自社製品を守っていくのは難しいと思った。

大手企業と契約を結んで生産に力を入れると、人材が少ない中小企業では開発に手が回らなくなり、新製品開発ができなくなってしまう。新製品を開発しても、この業界では3年ほどで次の新製品と入れ替わってしまう。そうすると、大手企業との契約が

切れて途端に仕事が無くなってしまふ。

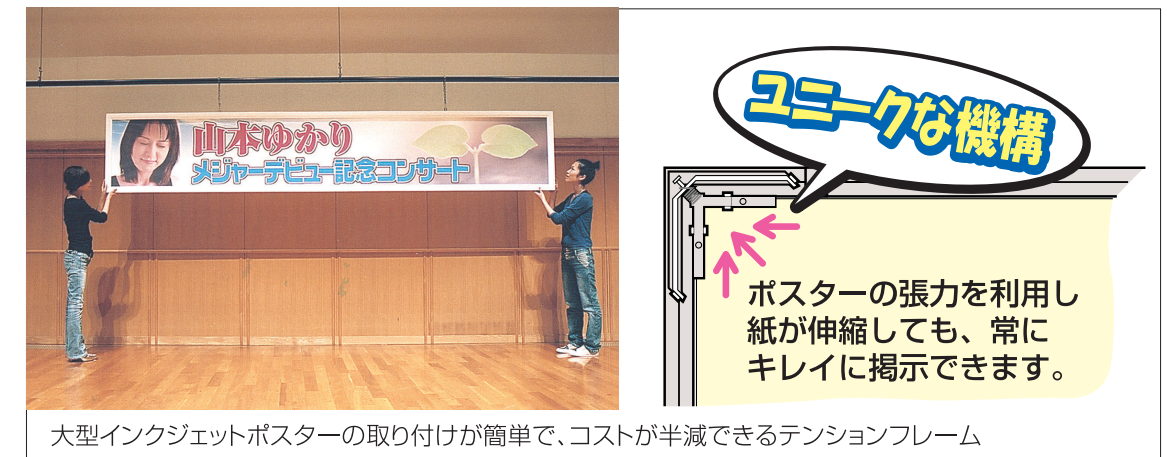
そういう激しい浮き沈みから抜け出し、市場を独占することにより継続して事業を行っていくため、昭和60年頃からは積極的に特許出願を行っている。周辺技術についても積極的に出願していたが、そのための費用は投資と割り切っていた。

一時は20～30件の特許権を所有していたが、維持費もかかるため、現在は製品化を見据えて不要な特許は切り捨てていくようにしている。

また、海外事業展開に向けて外国でも特許出願しようという事になり、30件ほど出願をして、半分は特許権を取得した。そのうち3件は現在でも権利を維持している。

今後は、出願とノウハウ管理の区別をしっかりと行い、知財を活かした事業展開を促進していく。

### 【保有権利に基づく製品例】



### <会社概要>

名称及び代表者名	株式会社アビサレ 代表取締役社長 笠原 敬次
本社所在地	静岡県掛川市領家864-1
創業	1912（明治45）年
資本金	1,000万円
従業員数	17名
主要製品	大型ポスターフレーム、ポスター、パンフレット、ラベル、シール
電話	0537-24-2301
URL	http://www.abisare.co.jp/